

# だいこん品種「いわて青首」のマルチ資材利用による作期前進

高冷地開発センター

## 1 背景とねらい

近年、県北部や高冷地帯において夏どりだいこんの産地化が進められており、栽培面積が急速に拡大されている。これらの産地の定着化と規模拡大を図るためには、品質の優れた品種を長期間にわたって栽培し、有利販売を図っていく必要がある。

これについては、昭和62年度に指導上の参考事項で、「いわて青首」品種について5月中旬～6月下旬のは種で作期拡大をしたところである。さらにマルチ資材を利用し作期を前進させることができれば、産地にとって販売上有益であることから、その可能性について検討した結果、その成果が得られたので指導上の参考に供する。

## 2 技術の内容

- 1) マルチ利用により「いわて青首」のは種期を2旬前進させることが可能であり、4月下旬～5月上旬からとする。
- 2) マルチの資材は地温上昇効果の高い透明フィルムとする。
- 3) 適応地帯は県北部、高冷地帯。

## 3 指導上の留意事項

- 1) は種期の安全最低気温は、は種後15日間の最低気温の平均がおおむね4℃程度となる日を目安とする。
- 2) マルチ栽培のは種期は5月下旬までとする。
- 3) 強風の場合を考え、マルチをしっかり止める。

## 4 当該事項にかかる試験課題名

山村活性化営農試験（大野村）土地利用型野菜の作型開発—だいこんの前進作型—

## 5 参考文献、資料

- 1) 昭和62、63年度試験成績書 岩手県園芸試験場高冷地開発センター
- 2) 昭和62年度指導上の参考事項（だいこん品種「いわて青首」の作期拡大）岩手県
- 3) 東北地域重要新技術研究成果 No.3 東北農業試験研究推進会議

6 試験成績の概要

表-1 生育特性

は種期	収穫期	マルチ	供試品種名	地下部の特性						生理障害		
				根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	根径比	着色長 (cm)	根形 ※	す入り (%)	空洞症 (%)	抽台 (%)
4 23	6 27	有	いわて青首 若 宮	1025	32.9	7.4	4.4	7.6	B	8.3	0	0
				1161	38.8	7.2	5.4	10.3	B	25.0	0	0
4 27	6 27	有	いわて青首	1103	34.2	7.1	4.8	8.9	B	10.0	0	0
5 2 2	7 1	有	いわて青首 若 宮	872	32.7	6.7	4.9	8.5	B	0	0	0
				853	35.0	6.7	5.2	7.6	A	10.0	0	0
		無	いわて青首 若 宮	622	25.6	6.8	3.8	4.0	A	0	0	0
				577	28.0	6.6	4.2	4.9	A	0	0	0
5 9	7 11	有	いわて青首	965	37.8	7.3	5.2	10.4	B	9.0	0	0
		無	いわて青首	633	30.5	6.7	4.6	6.4	A	5.0	0	0

注) 1. 抽台率は販売不能の抽台長5cm以上のものである

2. ※ 根形

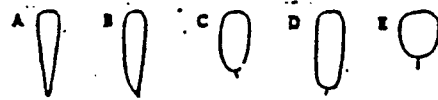


表-2 収量調査

は種期	収穫期	マルチ	供試品種名	全重 (g)	調整重 (g)	T/R率 (%)	障害根率 (%)			収量 (kg/a)
							腐敗	裂根	岐根	
4 23	6 27	有	いわて青首 若 宮	1523	1233	48.6	0	8.3	0	761
				1453	1203	25.2	0	16.7	0	742
4 27	6 27	有	いわて青首	1523	1242	38.1	0	0	0	767
5 2 2	7 1	有	いわて青首 若 宮	1305	1087	49.7	0	0	5.0	671
				1302	1036	52.6	0	5.0	5.0	639
		無	いわて青首 若 宮	1036	798	66.6	0	0	0	493
				998	767	73.0	0	0	0	473
5 9	7 11	有	いわて青首	1338	1172	38.7	0	0	0	723
		無	いわて青首	1065	833	68.2	0	0	0	514